

展示会に出展する高知県内の企業に人気の会社がある。サーマル工房（高知市、谷村正樹社長、088・833・8039）は無線操縦飛行機の製作キットを手がける模型会社で、展示会用のミニチュアモデ

ルの製作も請け負う。家族経営で、スタッフ1人を含む総勢5人の小さな会社だが、その技術は県内有力企業のトップもうならせる。

（松山支局長・森野学彦）

展示用ミニチュア機に注目

3Dデータ作成

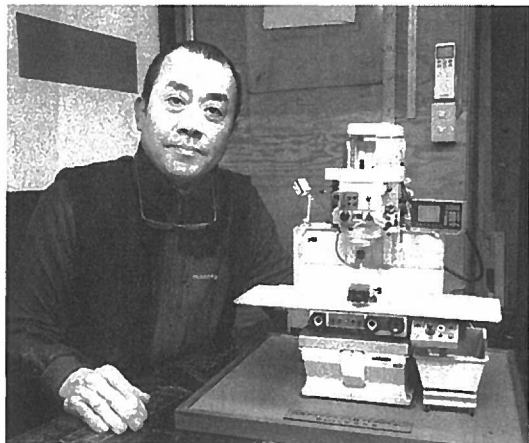
サーマル工房の存在感を高めているのが、産業機械や工作機械、橋梁などのミニチュアモデルの3Dデータ作成を展示した。

製作だ。顧客が描いた現物の図面から、3次元のCADデータを作成し、ボルトなどの数、位置で忠実に再現する。図面から読み取れない部分は客先に出向いて、現物を取材。塗料も本物と同じ色を使うほか、鋳物などのざらついた質感まで再現する。

工法開発に貢献

山崎技研（高知県香美市）は11月、東京ビッグ

サイトで開かれた日本国際工作機械見本市（JII MTOF）にフライス盤の実機とともにサーマル工房のミニチュアモデル



谷村社長が手がけた山崎技研向けのミニチュアフライス盤

ミニチュアモデルの製作は仕様により異なるが100万円。モデル製作の副産物である3Dデータも提供し、2次元CAD

サーマル工房 動き・質感、高い再現性

の利用が多い県内では重宝されるという。

谷村社長は県内メーカーで機械設計に携わっていた技術者。1992年に無線操縦飛行機のキットメーカーとして創業した。企業向けのミニチュア製作は13年前に受注を始め、モデルを使って橋梁などの新工法開発などにも貢献してきた。現在は飛行機技術が産業用途で注目を浴び、研究機関などから飛行ロボット（ドローン）の開発依頼もある。

ドローン製作も

今春、ドイツに欧州全域で同社の飛行機キットを販売する代理店ができた。ドイツは無線操縦飛行機の本場。「3年後に100機程度は飛んでほしい」と谷村社長。無線操縦飛行機、ミニチュア、ドローンの三つの事業で高みを目指す。

